

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 めくもりすぺいす「虹っ子」		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日		R6年 11月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	R6年 10月 22日		R6年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別セッションを中心に組み立てているため、個に応じた支援に取り組むことができていること。また、子どもの強みを見つけることを優先し、それを活かした活動を行うことで、子どもが意欲的に取り組むことができること	子どもの好きなこと＝ストレングス（強み）として、積極的に活動に取り入れている。子どもたちの好きなものは多岐に渡り、市販の教材ではそれらに応じられないので、一人一人に合わせた教材を手づくりしている	子どもが好きなことやストレングス（強み）を通して身につけた力を、日常生活や集団での生活など人や場面が変わっても発揮できるように、設定する課題に発展性を持たせて実施する
2	毎回、保護者にセッションを参観していただき、その後の個別面談で振り返りをしている。また、保護者に写真付きの活動内容を記した用紙を配布し、気づいたことなどをその場で書き入れてもらうようにしている	活動の振り返りだけでなく、ご家庭での困りごとやきょうだいの話、保護者ご自身の話についても聞くようにしている。また、保護者の中には共感的に聞いて欲しい方、悩みの答えを欲しい方などさまざまなので、それに応じた話ができるようにしている	保護者と話したことを一人で抱え込むのではなく、職員同士で共有し、対応や対策を見つけられるようにする。そして、共有したことを職員全員の知識やスキルとなるようにしていく
3	活動内でうまくいかなかったことは、そのままにせず工夫や改善を行うこと	職員間で相談したり、意見を出し合ったりして、改善に取り組んでいる。また、今年度は、よこはま発達グループに外部評価を依頼し、その結果を踏まえてコンサルテーションを受けた。職員全員で日々の支援を見直すことができた	職員が慢心するのではなく、やっていることに常に疑問を持ちながら取り組む。また、活動を行う際に、あらかじめ他の手段を考えておいたり、2～3手先のことを予測しておいたりすることを心がける

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	来所が多い時間帯にスペースが狭く感じる	今年度は、昨年度と比較して個別セッションが多くなり、時間の調整が難しかった	活動時間の重なりをできるだけ少なくするために、開始時間の検討をする。また、狭く感じるのは遊びのスペースなので、必要に応じて、個人が使用できるエリアをマット等で視覚化してわかりやすくし、負担感の軽減を図る
2	支援計画の内容に沿った活動を実施するように心がけているが、活動のねらいを伝えきれていないことがある	活動のフィードバックとは違った話が先行することや、限られた時間内で話すことにより、職員がねらいを伝えきれていないことがある。 職員の認識と保護者の認識にズレが生じていることも考えられる。	共通理解ができるよう、面談の時間だけでなく、保護者向けプリントを活用する。また、いま一度、職員が個別支援計画を頻回に見返し、念頭に置きながら活動を組み立てることを徹底していく
3	地域との交流、きょうだい同士の交流、幼稚園・保育園との交流が行えていない	週に1回の利用者がほとんどで、時間差で通所しているため、まとまった人数で活動を組み立てていくことが難しい。個別のニーズに応じることを優先してきたことも要因の一つである。	通っている子どもたちの交流イベントを実施し、その中でご家族（きょうだい）も相互に関わりながら交流を図っていくような流れで機会を設けていきたい。地域の交流と幼稚園・保育園との交流については、保護者のご希望を基に考えていきたい